

## 特定失踪者のご家族からのメッセージ

名前を呼ぶだけで23年たった今も涙がでてきます。23歳で消息不明になり、一緒に暮らした分を過ぎてしまいました。

母さんが良く見る夢は23歳の顔のままの留美ちゃん。目が覚めて夢をたどっていても途中で道がなくなり向かえに行きたくてもいけません。父さんも良く夢を見て寝られず朝迄本を読んだりして気を紛らわしています。

平成7年3月26日この日を思い出すと悔しさをいっぱいになります。

もっと捜せなかったか近所の人達、親戚、会社の人、力を借りてまだ雪が散らつく中捜し回りました。一週間が過ぎ一年として23年何も手がかりもないまま留美ちゃんを見つけてあげられなくてごめんなさい。

父さん、母さんは留美ちゃんに会える事を信じて頑張って帰りを待ちます。

▲植村留美さんの母 植村光子さん

“おとうさん”、あの娘の声が…。

助けてやれない、手を差しのべて抱いてやれない…。うすい毛布の中で寒さをこらえて泣いているのじゃ、腹すかしてないか、病気になって苦しんでいるのじゃないか…。

いつまでこんな心配に耐え続けるのか、娘の辛さに比れば、耐えなければもう23年。いつになるのか抱き会えるのは。早く帰っておいで。

平成7年3月26日桜の花の頃、普段着に運動靴、夜になっても帰って来ない、財布もおいたまま、事故か拉致か、警察は家出あつかい、成人だから、自分で探すしかない。1年、2年、彼岸の四天王寺行先死亡、病院、官報、いない。北朝鮮・特定失踪調査会に心を支えられ、全国に同じ苦しみの人がいた。今の日本でこんな事が、何百人も…。

▲植村留美さんの父 植村照光さん

2001年12月22日、淀川にあります社員寮より行方不明になり17年が経過しました。今でも「いったい何があったのだろう?」という所から進めなっています。

大学卒業後社会人となり、いっぱいの夢を描いていたであろう息子の悔しさを思うと、胸が締め付けられる思いがします。

今回、菅官房長官が拉致担当大臣になられ、政府の本気度を感じ期待をしています。家族の思いを胸に交渉がなされ一日も早い再会が出来ます様、願っています。

▲賀上大助さんの母 賀上文代さん

1日も早く全員が、日本の国に帰って来れる事を、毎日祈って居ります。

日本の国の全ての方が、又北朝鮮の国民全てが、人間の本文にたちかえって、もういちど、人の心をとりもどしてもらいたい、と思います。そして、いちにちも早く、国交の樹立をして、共に人の行来が出来る事を希望します。

▲尾上民公乃さんの父 尾上支征さん

## 大阪府の取り組み

拉致問題解決のためには、政府の外交をはじめとする様々な取り組みはもとより、私たち一人ひとりが関心と認識を深め「決して許さない」「必ず取り戻す」との世論を高めていくことが必要です。

このため、2017年2月には、拉致被害者の方々に向け、松井知事と吉村大阪市長が、北朝鮮向けラジオ放送「しおかぜ」に励ましのメッセージを発信しました。

また「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」には、啓発キャンペーンや映画「めぐみ」上映会などを開催しています。さらに、政府拉致対策本部等と連携し、啓発舞台劇の上演や拉致被害者家族をお迎えした集会も開催しています。

拉致被害者の皆様の一日も早い帰国を目指して、引き続き政府を強力に後押しする取り組みを進めます。

※本誌P3(政府認定の拉致被害者17名)とP6(大阪府にかかる特定失踪者公開リスト)については、情報源が異なるので情報量に差があります。